

自然観察 NOW

NO : 27

野幌森林公園自然情報

発行 : 2018年3月25日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



啓蟄も過ぎ春の陽射しが注ぐ頃、森の中でも冬から春への変化が起きています。五感を活用して森の春を探してみましょ。う。

【 樹液 】

○ **カエデの仲間**・・・北海道では今の時期カエデの仲間の枝や幹などから樹液が滲み出ているのを目にします。特にイタヤカエデからの樹液は一番甘く、鳥やリスたちにとっても好物と見え、わざと突き痕を突いたり、かじり痕を幹に残しているようです。

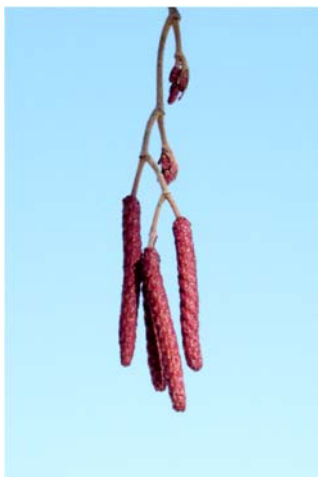
カナダの国旗はサトウカエデをデザイン化したものです。その樹液から作るメイプルシロップは商品化されています。樹液が流れ出てくるのは、3月～4月にかけて、夜の気温が約-5℃で日中の気温が約+5℃という条件の揃ったほんのごくわずかの期間です。この条件に合わないと樹液は出ません。寒さの厳しい冬に備えられたデンプンが春になると糖分に変化して樹液となって流れだす。それでも樹液自体の糖度は2～4%しかないので66%になるまで煮詰めたものがメイプルシロップとなります。

○ **シラカンバ**・・・春になると根の活動が活発になります。美深町で作られているシラカンバの樹液は町の特産品となっています。ほんのり甘い樹液です、北欧やロシアでは樹液から酒をつくり韓国ではこの樹液を飲む祭りがあります。人間の知恵は万国共通に思います。

【 花粉 】

春3月になると北海道以南ではスギやヒノキの花粉が飛び花粉情報が注意を促しています。北海道ではカバノキ科のハンノキ、ケヤマハンノキ、シラカンバの花粉がアレルギーの原因となっています。3月末になるとケヤマハンノキの雄花が長く伸び黄色の花粉を飛ばします。続いてハンノキ、少し遅れてシラカンバが咲きだします。特に①風の強い日 ②暖かい日 ③乾燥している日は花粉の量が多く飛びアレルギーを持つ人は要注意です。

ケ
ヤ
マ
ハ
ン
ノ
キ
の
雄
花



[カバノキ科の樹皮]



ケヤマハンノキ



ハンノキ



シラカンバ

【 ヤナギ 】

気温が上がると樹木の芽が膨らんで来ます。特にヤナギの仲間は早くから芽鱗を開きぷっくりとした花芽を青空に輝かせています。野幌森林公園ではヤナギ科、ヤナギ属は「マルバノバッコヤナギ」「イヌコリヤナギ」「シロヤナギ」「エゾノカワヤナギ」「オノエヤナギ」「タチヤナギ」が記録されていますが、「エゾノキヌヤナギ」「エゾヤナギ」も見つかっています。花の少ない時期にヤナギの花を探して観察することも楽しいことと思います。種類により微妙に花の咲く順番が異なるように思います。

古くから、ヤナギの楊枝を使うと歯の痛みが和らぐことが知られていました。ヤナギの樹皮には痛みを和らげる成分が含まれています。ヤナギの樹皮は古くから防腐剤としても使われてきました。また、熱を下げる効果も発見されました。ヤナギ属の学名 *Salix* 「サリックス」にちなんでその物質は「サルチル酸」と名づけられました。鎮痛解熱剤として副作用が出ますが、1897年に副作用を抑えた「アスピリン」がつけられました。

【 フキノトウ 】

一足早く雪の消えた斜面などに“春を見つけた”とうれしくなるフキノトウです。これはアキタブキの花です。雌株と雄株とあり草本では珍しい雌雄別株です。花が終わるころ葉がでてきます。葉と花は地下茎で繋がっています。



【 根開き 】

雪解けが始まる頃になると森の中では樹木の周囲の雪が早く解けだします。ドーナツ状の穴が出来ると一気に雪解けがすすみます。この現象を「根開き」(ねあき)とか「雪根開き」(ゆきねびらき)とよんでいます。その主な原因は直射日光を受けて暖まった樹木の幹からの放熱と日射を受けた樹木からの反射光です。実験効果では放熱の効果の方が大きいとのこと。

【 野鳥 】

繁殖期に入った野鳥のさえずり(シジュウカラ、ゴジュウカラ、ヤマガラなど)が力強く響き、キツツキの仲間のドラミングも春の訪れを感じます。3月末には夏鳥の姿をみられることがあります。

観察会案内

4月19日(木) 春の花を見つけよう 10:00~12:30 自然ふれあい交流館集合・解散

参考資料:「自然ガイド野幌森林公園」・「クイズ植物入門」・(株)プレス・オールターナティブのパンフレット

文責: 内山恭子